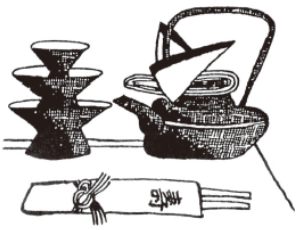
正月の漢方薬

屠蘇



正月元旦に屠蘇酒を、最も幼い者から年長の者へと順序よく飲んでいって、一年の邪気を払い、無病息災の祈りをこめるという風習は平安時代に中国から伝来してきたものであるが、当時は天皇家のみの風習であった。屠蘇は「元旦に是を飲めば、年間病なし、一人是を飲めば、一里に病なし、幼少より是を飲めば、老後に病なし…」といわれ、中国の養生医学の一つの所産ともいえるものだけに、その後、この宮中の風習が広く民間にひろまった。昔は、その作り方はなかなかやっかいなものであった。まず、年の暮になると、各家で一〇種に近い生薬を調合して屠蘇をつくり、それを緋の絹の袋に入れて井戸のなかにつるしておき、元旦になってから朝早くとりだし、酒にひたして飲むのだが、酒のかわりに口あたりのいいみりんになったのは明治時代になってからである。松の内を過ぎると残りかすを井戸に投じ、この井戸水を飲めば、その年は家中のものが流行病にかからないといわれた。しかし水道の発達とともに、井戸に屠蘇を投じる風習はすたれてしまった。江戸時代には、患者が年の暮に薬礼を持っていくと、体にいいから…と言って医者が返礼に屠蘇をくれるという風習もあった。現在、医院、薬局などで屠蘇をくれるのはそのなごりである。時代の移り変わりというか、最近は正月に家庭で、屠蘇酒を飲み新年を祝う風習が、次第に薄れてきた様な気がする。しかし屠蘇は、日本の正月のゆかしい祝儀としてだけでなく、優れた薬酒としてぜひ忘れずに残しておきたいものです。屠蘇にはいくつかの処方がありますが、最も普通に用いられる六つの生薬とその薬効を述べると、ほぼつぎのようになります。

山椒（サンショウの果実の殻）
健胃薬であり腹痛をおさえガスの排出をよくする。回虫の駆除。

防風（ハマボウフウ根）
発汗。解熱。鎮痛。解毒。

白朮（オケラの根）
健胃。整腸。利水。

桔梗（キキョウの根）
去痰。鎮咳。排膿。

陳皮（ミカンの皮）
健胃。鎮咳。鎮吐。

桂枝（ニッケイ）
解毒。鎮痛。健胃。

屠蘇を漢方医学的にみると、食欲増進、健胃、整腸、駆風、去痰などの作用があり、その芳香は精神を壮快にして元気づける効めがあるとされています。屠蘇が優れた薬酒であることは、容易におわかりいただけると思います。

養正会薬局　（鍵山）

からだがだるい

手技療法

文字通り、元気の泉がわいてくるツボで、高血圧や冷え性など応用範囲の広いツボです。

「勇泉」

「勇泉」は、足の指をギュッと内側に縮めたときにできる山形のしわの頂点にあります。

知っていますか？ おばあちゃんの知恵

お正月の食物といえば、お餅。ねばり気があって、鳥もち同様に物にくっつくから、お餅というそうです。実はこの餅に利尿抑制作用という働きが、あるそうです。おしっこの出を少なくする食品というわけです。だから夜尿症の子供に食べさせるのでございます。お好みの味付けで、寝る前に焼きたての餅を二切れ食べさせるだけでいいのです。これでだめだったらギンナンにも餅と同様な利尿抑制作用がありますので、寝る前に、餅二切れギンナン五個を、雑煮にして食べさせると効きが強くなります。餅はおしっこの出をなくするわけですからむくみがあったり、膀胱炎のある人は、食べるのをひかえた方がいいようです。又餅を食べすぎると、皮膚の抵抗力が減少して細菌が繁殖しやすくなりますので、ニキビや火傷、できもの、アトピーの人は、治りが遅くなったり、皮膚にブツブツが出てしまったりするようです。

薬剤師　高木　丈夫

こどもの病気シリーズ

熱性けいれん（ひきつけ）

症状

高い熱を出した時に起こる全身のけいれん発作で「ひきつけ」と呼ばれているもので、小児性のけいれんの中でも、頻度が高く、年齢とともに消失する良性の疾患です。

手足を伸ばし首、背中を後ろに反らせて全身をつっぱったり（強直性けいれん）、全身を震わせたり（強直間代性けいれん）をすることが多いものです。

治療

過去にひきつけを起こしたことのある子供が高熱を出したときは早めに解熱剤を用い、水分を飲ませ脱水を起こさないようにします。それでも熱が下がらないようであれば早めにけいれん予防のための坐薬を用います。けいれんを起こした時は抗けいれん剤を用いることもあります。薬の具体的な使用方法については、かかりつけの病院や薬局の指示に従ってください。

注意

熱性けいれんの場合は、5分以内ぐらいの間におさまってしまうもので心配はいらないのです。

したがって、ひきつけが始まったらまず、衣類をゆるめて、体に熱がこもらないようにします。そして、静かに顔を横に向けて寝かせ、様子を見ます。口の中の唾液は、ガーゼで拭きとります。

5分たってもけいれんがおさまらない場合は、他の原因も考えられるので病院へ行くなどの行動を始めるべきでしょう。

ひきつけをおこした子供のお母さんは「てんかんでは？」と心配する人がありますが大半の熱性けいれんは大きくなってひどいてんかんになったりすることはなく、6歳ぐらいまでの間に何度か高熱とともに短いけいれんを起こしただけでそれ以外は何事もなく終わってしまうものです。あわてないことが大切です。

養正会薬局　薬剤部